

## 「ペストロジー」投稿規定

1. 本誌は日本ペストロジー学会の機関誌である。この会の設立目的（ねずみ・衛生害虫、その他生活および産業上の有害・不快生物の防除に関する学問の進歩並びにその応用技術の向上を図ること）にかなう総説、原著、短報、事例報告、資料、記録・報告、雑報などを掲載する。投稿する原稿は未発表のもので、他誌に投稿中ではないものに限る。

爬虫類・鳥類・哺乳類を用いた動物実験および人体実験を伴う研究は、所属研究機関の研究倫理審査委員会承認されたものでなければならない。

産学官連携研究活動等にもなう利益相反関係が存在する場合、投稿時に申告する必要がある。

遺伝資源を扱う研究は、遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する指針（ABS指針）を遵守しなければならない。

原稿の範囲について：

- a) 総説：専門分野の既存の研究成果・現況・展望を文献などにより総括し、解説したものとする。
- b) 原著：独創的な内容で、価値ある新知見とそれらの論考をまとめたものとする。
- c) 短報：新しい事実や価値ある内容を含む論文、あるいは速報的価値のある論文で、比較的短いものとする。
- d) 事例報告：現場で得た有害生物に関する興味深い事例や防除方法の工夫や改良などで得られたものとする。
- e) 資料：価値ある観測・観察・実験結果などとする。
- f) 記録・報告：価値ある観測・観察・実験結果の記録や事例などで、d)やe)にあてはまらないものとする。
- g) 雑報：ニュース、意見、書評、シンポジウム報告などとする。

2. 投稿者の筆頭著者、または責任著者（corresponding author）は、名誉会員および正会員に限る。なお、本会が依頼した原稿はこの限りではない。共同執筆者には会員以外のものを含むことができる。

3. 原稿（1. g）を除く）は必ず原稿執筆要領に従うものとし、原稿の採否は査読を経た後、編集委員会で決定する。

4. 投稿原稿の校正は、初校のみ著者校正とし、以降は編集委員がこれを行う。

5. 総説および原著は、原則図表を含め刷り上がり8ページ以内、短報、事例報告等は3ページ以内とする。アートページ、カラー印刷代は、原則実費を著者負担とするが、4ページを限度として編集委員会の判断により学会負担とすることができる。

6. 論文PDFと別刷り50部は筆頭著者、または責任著者に贈呈するが、別刷りの50部を超える分については実費を著者負担とする。

7. 原稿は、右記送付アドレスに原稿送り状（ホームページよりダウンロード可能）と共に電子メールの添付書類で送付する。電子メールが利用できない場合は、原稿2部（1部はコピー可）に本誌巻末の「ペストロジー原稿送り状」を添えて、奥付の編集事務局に送付する。

### 原稿執筆要領

- ①和文原稿は原則としてMS Wordなどで作成し、A4判の用紙をタテ長に使い、上下左右を3 cmあけて、1ページ40字×25行、和文用文字はMS明朝、英数字用文字はCenturyのそれぞれ10.5ポイントを用いる。和文原稿の場合でも、数字はCenturyの10.5ポイント（半角）を用いる。句読点は全角の「，」と「。」を使用する。英文原稿もMS Wordなどで作成し、A4判をタテ長に使い、ダブルスペースの間隔をとり、左右上下を3 cmあける。

- ②図、写真はできるだけ少数にとどめ、それぞれA4版1枚ずつに分け、本文とは別にまとめて原稿末尾に添付する。挿入場所を本文右の余白に赤字で示す。
- ③和文原稿では、a 表題、b 著者名、c 所属・住所、d 6語以内の日本語キーワード、e 英文表題、f ローマ字著者名、g 英文所属・住所、h 英文Abstract（200 words以内とし、事例報告、資料、記録・報告、雑報はなくても可）、i 6語以内の英語キーワード、j 本文（緒言、材料および方法、結果、考察、摘要、謝辞など）、k 引用文献、l 表、図の説明、m 図の順序で記述する。英文原稿では、和文摘要を本文の後に付ける。なお、すべての原稿中央下に通しページ番号を、原稿左側に通し行番号を付ける。
- ④動植物の和名、外来語はカタカナとし、数字は算用数字を用いる。本文中の学名（属・種・亜種）はイタリックに指定し、本文中の初出では属名を完全表記し、2回目以降は属名を略記する。
- ⑤表題、Abstract、本文、引用文献等における英単語は、行をまたがらないようにし、数字と単位の間には半角のスペースを挿入する。また、括弧「（）」は、和文では全角、英文では半角とする。
- ⑥英文原稿は、投稿前にしかるべき機関の英文校閲を受けることとする。ただし、和文原稿のAbstractはこの限りでない。
- ⑦引用文献は本文に示したものに限り、筆頭著者のアルファベット順に配列し、以下の例に従い記述する。  
林晃史、篠永 哲（1979）ハエ生態と防除—。210pp. 文永堂。東京。  
平尾素一（2000）防除作業の安全衛生管理。「住環境の害虫獣対策」（田中生男ら共編）、328—340。日本環境衛生センター。川崎。  
Pedigo, L. P.(1989)Conventional insecticides. “Entomology and Pest Management” (ed. Pedigo, L. P.), 359—412. Macmillan Publishing Co., New York.  
Silverman, J. and M. H. Ross (1994) Behavioral resistance of field-collected German cockroaches (Blattodea: Blattellidae) to baits containing glucose. J. Environ. Entomol.,23:425—430.  
谷川 力、谷口信昭、荒川 治、内田明彦（2001）ワルファリン抵抗性クマネズミに対するフロクマフェンの殺鼠効力。ペストロジー学会誌、16: 95—99。  
東京都福祉保健局（2013）東京都におけるねずみ・衛生害虫等相談状況調査結果。  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kankyo/eisei/nezukon/>（2013.7.1.確認）

- ⑧その他、不明な点は、学会誌最近号を参照すること。

### 原稿送付先

- 1) 原稿はMS Wordなどで作成し、規程の送り状を添えて編集委員長宛て（pestology-editors@pestology.jp）に電子メールの添付書類で送付する。電子メールを利用できない場合は、編集事務局宛てに書留郵便で2部送付する。このうち写真を除いて1部はコピーでも良い。なお、希望のない限り既登載原稿は返却しない。
- 2) なお、原稿を編集事務局で受領した場合は、事務局より受領番号を記した「原稿受領書」を、投稿者に送るので、それをもって正式な受付とする。

### 付則

- 1 本規定の変更は編集委員会の議決による。
- 2 著作権は日本ペストロジー学会に帰属する。
- 3 2024年12月に改訂